学校便り

杉十

“かがやきの学校”

９月号
平成２９年９月１日
杉並区立杉並第十小学校

本当にそれでいいのだろうか

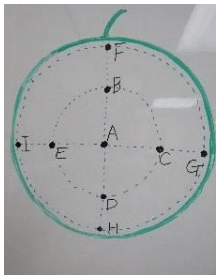
校　長　　山　口　　京　子

「すいかは場所によって甘さがちがうのか」この問題を解決しようと、私は夏休みに自由研究をしました。問題解決のプロセスにおける、私自身の自分との対話を少し紹介します。

・・

予想。すいかは真ん中が一番甘く、外側に行くほど甘くなくなると思う。だって、切ったすいかを食べると一口目がすごく甘くて、食べ進めば進むほど甘くなくなっていく気がするから。

実験の方法。すいかのいろいろな部分を食べてみよう。本当にそれでいいのだろうか。感覚だけではあてにならない。そうだ、「糖度計」で調べてみよう。（買いに行く。）すいかの真ん中と外側の糖度を調べよう。でも本当にそれでいいのだろうか。そうだ、すいかを縦に二つに切って、ＡからＨまでの糖度を測ってみよう。



結果の予想。私の予想が正しければ、糖度が一番高いのはＡ、次にＢ・Ｃ・Ｄ・Ｅ、一番低いのがＦ・Ｇ・Ｈ・Ｉだろう。でも、本当にそれでいいのだろうか。すいか１個だけの結果では信用できないではないか。３個は調べないと。

結果は下の表の通り。①②③の３個で実験。

【すいかの糖度】　　（%）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
①	14	11	11	12	12	7	8	7	6
②	12	11	10	11	10	7	7	8	7
③	13	10	10	11	10	6	7	7	6

結果からの考察。やった！私の予想は当たっていた。すいか①②③の、場所による糖度の平均は、Ａ：１３％、Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ：１１％、Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ：７％。このことから、すいかは場所によって甘さがちがうと考えてよさそう。

結論すいかは、場所によって甘さがちがう。中心部分が一番甘く、外側に行けば行くほど、甘くなくなる。

でも、本当にそれでいいのだろうか。すいかが実っている向きや太陽が当たっている方向等も考慮すべきではないか。さらに、すいか以外の果実も同じなのだろうか。同じウリ科のメロンは下の方が甘いと言うではないか・・・。

・・

給食のすいかを食べていて抱いた素朴な疑問から始めた自由研究でしたが、問題が一応解決できてすっきりしました。でも、まだ「本当にそれでいいのだろうか」が残っています。

杉十小では、「自然や人、自分と対話し、主体的に問題を解決する児童の育成」～事実から考えを深める子～という研究主題で、理科・生活科を中心にした授業研究を続けています。

主体的に問題を解決するには、自然や人との対話はもちろんですが、自分との対話がとても重要です。自分の予想や自分が立案した実験の方法、解決までの道筋が妥当なのか、その都度振り返りながら「本当にそれでいいのだろうか」を繰り返して解決できる人を育てようと、校内外の多くの先生方と共に取り組んできました。

これまでの成果を１０月２７日（金）「全国小学校理科研究大会」で発表します。ぜひ、ご参観くださり、共に考えていただければ幸いです。

鍛える夏！夏季パワーアップ教室・自習室

学力向上担当

夏休みの初め７月２１日（金）～２７日（木）の５日間に、パワーアップ教室と自習室を行いました。パワーアップ教室では担任や学年の教員が指導にあたり、学習内容の基礎基本の定着を目指してじっくりと取り組みました。また、自習室では子供たち一人一人が自分で深めたい学習を考えて、教材を準備してきて、学習に集中する習慣が付くように取り組みます。低学年は１日２時間、高学年は３時間、どちらの教室でもひたむきに一生懸命に頑張る子供たちの姿が見られました。

● パワーアップ教室 ●

担任や学年の教員を中心に基礎基本の定着を図るために、少人数のクラスで算数と国語に取り組みました。教員から課題となるプリントが配布されると、みんな張り切ってチャレンジです。一人一人が一問ずつ確実に考えて、問題を解いていきました。解き終わったプリントはその場ですぐに教員が答え合わせをし、子供たちは、できるようになったところや自分の課題をすぐに確認できるようにします。練習を重ねていくと、正しくできるようになったり、スピードが上がったり、「やったぁ。」「よし、がんばるぞ！」と子供たちも自信を付けて、どんどん次のプリントに取り組むことができました。

２年生以上は前学年の学び残しを少しでもなくすために、「東京ベーシックドリル」というプリントを使用した学年もありました。子供たちが自分で解けない問題を解けるようにするために作成された練習プリントです。
「できるんだな」という棚に入っているたくさんのプリントの中から、自分の課題にあったプリントを選んで、意欲的に取り組んでいました。

できると次のプリントに進んでいけるので、できるようになった実感がもて嬉しそうにしている子供たちの姿が見られました。

● 自習室 ●

各学年のワークスペースや図書室、算数室等を利用して、エアコンの効く学習環境の中、自習室にも子供たちが集まりました。夏休みの宿題を持ってきたり、家からの問題を持ってきたりと、集中して学習に取り組みました。杉十フレンズ（学校支援本部）の方々にも協力してもらい、子供たちの学習習慣の定着を目指しました。分からないことがあると質問をしながら、学習を深めることができました。

杉並区民オペラ公演に出演！

楽教室担当

７月２２日、２３日に杉並公会堂で行われた杉並区民オペラ第１３回公演「道化師」に、本校音楽教室の３年生から６年生の児童３０人が出演しました。朝練習の他、土曜日や日曜日にも、プロのソリストや合唱団の迫力ある歌声に交じって歌と演技の稽古を重ねました。日を追うごとに歌声や表情、声の響きがパワーアップしていく様子が印象的でした。本番は１０００人を超えるお客様を前に、明るく元気な歌声で村の子供たちを演じきり、大舞台に立つ緊張感と、達成感を味わうことが出来ました。

お話ロケット・パラシュートと図書ボランティアさん

図書担当
学校司書

杉十小では、毎月１回、読み聞かせ「お話ロケット・パラシュート」があります。保護者の方々と杉十フレンズ（学校支援本部）図書部の方々が交替で、学年や季節にあった本を選び、読んでくださいます。「お話ロケット」は、月１回、中休みに図書室で行う読み聞かせで、１４年ほど前から始まったそうです。はじめは、なかなか子どもが集まらず、スタンプカードを作るなど工夫して宣伝したそうです。努力のかいがあり、子どもが集まるようになり、各クラスでの朝の読み聞かせ「お話パラシュート」へと広がり、現在まで続いてきました。「子どもにおもしろい本を届けたい」という保護者の願いが、「ロケットで図書室からとび出し、パラシュートで子どもの教室に着地」というのが名前の由来となっているそうです。

現在では、約５０名の保護者の方々が図書ボランティアとして登録くださっています。選書や読み聞かせの技術に関する学習会も実施しました。朗読劇やペープサートを使った読み聞かせや、ブッカーかけや蔵書点検、展示作りのお手伝いなど活動の幅も広がっています。

お話ロケット・パラシュートで読み聞かせていただいた本の葉っぱがしげる「読み聞かせの木」。今年も大きく育っていくのが楽しみです。

図書ボランティアさんは随時募集中です。興味のある方は、現ボランティアさんに直接聞いていただくか、杉十フレンズさんにお声かけください。子どもたちは、毎回、とても楽しみにしています。

▲お話ロケット

▲お話パラシュート

夏季水泳教室

体力向上委員会

７月２８日（金）から８月３０日（水）までの１０日間に夏季水泳教室を行いました。短期間に集中して練習し、上達する児童がたくさんみられました。杉並第十小学校の水泳指導は、１年生から６年生まで各学年での系統性を意識して進めています。水泳が得意な子も、少し苦手だなという子も、自分の目標をもって、水泳の楽しさを味わえるように指導をしています。

１・２年生は「水遊び」です。楽しく水遊びをしながら水に慣れ、もぐったり浮いたりすることができることを目標にして取り組みました。水かけっこ、まね遊び、水中じゃんけん、バブリングやボビングを通して、身に付けていきました。

３・４年生は、「浮く・泳ぐ運動」です。浮く運動では、伏し浮きなどで全身の力を抜いて浮くこと、け伸びは、体を一直線に伸ばして進むことを目標にして取り組みました。泳ぐ運動では、呼吸を伴わない泳ぎから、呼吸をしながら進むことを目標に取り組みました。一人で活動したり、友達とアドバイスをし合ったりしながら身に付けていきました。

５・６年生は、「水泳運動」です。クロールと平泳ぎで２５～５０ｍを目安にして、泳げるようになることを目標にして取り組みました。クロールや平泳ぎのストローク、平泳ぎのかえる足が、しっかりとできるようになるために自分の課題を見付けて練習をし、身に付けていきました。

自分の課題を見付け、課題を解決していくために、練習の場や段階を選んで練習をしていくことがとても大切だと考えています。頑張っていることを認め、できるようになったことを褒め、一緒になって喜び、これからも子どもたちを支援していきます。